



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発責 教育・広報部
2021年1月27日 No.278

「新幹線車両センターの新設について」

1月27日に新幹線統括本部より団体交渉で提案を受ける

○新幹線車両検修職場における新幹線特有の技術に磨きをかけるため、秋田新幹線車両センターを新設する。

○実施事項

秋田新幹線車両センターを新設し、現在、秋田支社秋田車両センターが担当している新幹線車両に関する業務を移管する。なお、秋田新幹線車両センターは新幹線統括本部所属とする。

○設置場所

秋田支社秋田車両センター総合事務所内

○実施期日

2021年4月1日

○秋田新幹線車両センターの標準数

長 1、助役 3、車両 25 合計 29



○その他

秋田支社秋田車両センターの在来線車両に関する業務については、秋田支社秋田総合車両センター南秋田センター（新設）が担当する。

主な議論内容

組合：現在の秋田車両センターを2つに分割するイメージか。

会社：業務を分割するイメージである。秋田車両センターの新幹線と在来線の2つの業務を分離して新幹線に関わるものは新幹線統括本部、在来線に関わるものは秋田支社で担当する。

組合：現在の工具や建物などの財産区分はどうなるのか。

会社：現在、使用中のものについては秋田車両センター内で検討する。基本的に新・在共用のものは秋田支社、新幹線専用のは新幹線統括本部になる。車庫や庁舎、職場環境に関わる備品は秋田支社が管理し、秋田支社管理の建屋に新幹線統括本部が「間借り」する形になる。

組合：現在、新幹線業務を担当している社員が新幹線統括本部の所属となるのか。

会社：現在の担当により所属が変わるわけではない。担当業務のほか、面談で将来の希望などにより判断する

組合：当社の経営状況が非常に厳しい中、本施策により新たな経費が発生するが、当社の企業活動として費用対効果をどのように考えているのか。

会社：具体的には示せないが、人材・コスト面で総合的に判断した。資金運用や人材運用で効果があると考えている。このような厳しい状況でも少しでも前に動かせるような施策は考えていきたい。どこまでできるのかは今後勉強させていただく。